

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷  
相模原市中央区田名7236-3  
発行責任者 政野 光廣  
042-760-1033  
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>  
e-mail: [ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



2014年元旦 初日の出 海ほたる にて 原友作(21) 撮影

\* 海ほたる・・・東京湾アクアラインに浮かぶパーキングエリアの名称

【2014年 新春号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇自閉症について	P 4・5・6	◇ケアホーム便り・ヘルパー便り	P 7
◇後援会	P 8		

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109

毎月15日発行 購読料1部 15円

## 新年のご挨拶

理事長 政野 光廣

新年あけましておめでとうございます。

平成26年の新春を迎え、皆さまには新たな気持ちでご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。昨年は社会福祉法人風の谷に多大なるご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

ご存じのように、昨年は障害福祉関係の法整備で大きな進展がありました。2013年4月には障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための障害者総合支援法の施行、6月には障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的として障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）が成立いたしました。また、12月には障害者の差別禁止や社会参加を促す国連の障害者権利条約が参院本会議で可決され、国会で正式に承認されました。追加すべき項目や見直すべき箇所も出てくるとは存じますが、まずは各法律の趣旨が広く皆様に理解され、共生社会実現に向けての諸施策の運用が期待される所です。

また、昨年は風の谷の設立時の母体でありました相模原市自閉症児・者親の会の設立30周年の記念式典が行われました。十年一昔と言いますが、30年継続しての親の会活動は着実に地域に浸透し、自閉症者への支援と親達が支えあうこと、つながりあうことで共に地域で生きていく姿勢にたくましさ、力強さを感じた次第です。奇しくも、昨年は社会福祉法人風の谷も「やまびこ工房」を立ち上げて15年の節目の年でもありました。本年度の法人活動の大きな指針としては中長期法人ビジョンの策定と直近の重点課題であります新規事業（仮称 第二やまびこ工房の開設）の推進にあります。特に第二やまびこ工房の開設は一昨年からの継続計画であり、利用者の増加による、スペースの確保と個別的な配慮に基づく支援を必要とされる利用者への支援の充実には無くてはならない拠点施設であります。昨年の国庫協議の結果を受けて、さらなる対応策を策定中です。設立に向けての国、県および相模原市のご支援を切にお願い致しますと存じます。本年度も「すべての活動は利用者のために！」を運営の原点とし、職員と共に確認し合い、この15年間で培った知識、技能を糧に一層の研鑽を積み、魅力あるサービスを提供するとともに利用者満足度の高い法人、施設運営を目指したいと思っております。

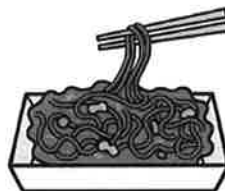
最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたすとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

## 今年もやります！地域交流バザー！

日時：2014年6月8日（日）  
10:00～14:00

会場：やまびこ工房

皆様のご来場お待ちしております！



## 相模原自閉症支援センターより

私たちの仕事はごくあたり前の日常を支援することにあります。そういう仕事をしていると仕事から趣味に発展することもあります。例えば、水泳です。子どものころから水が苦手で、小学生の頃、水泳の時間はどう仮病を使うか悩んだりしていました。当然泳ぐのは得意ではなかったのですが、利用者の希望でプールに行くことが多々あります。さらにはスイミングスクールへ同行することもあります。そんなことをしていると泳げないことに対するコンプレックスが深まってきます。そこで、水泳に関する本を何冊か読み、ある日、そうかとわかったのです。浮き袋は肺にあって、重心はヘソのあたりにあるという説明でわかったのです。そして、ガイヘルで行ったヨネッティー王禅寺で泳ぎのコツを掴んだのでした。

最近のブームはミステリーです。Gさんと面談していて、なかなか会話が弾まず、Gさんのことを理解できないもどかしさを感じていたのです。そこで、読書が趣味のGさんにお奨めの本を訊いたのです。10分くらい沈黙が続き、紙に記してくれたのがアガサ・クリスティー著 探偵ポアロシリーズのある本でした。書店では見つけれなくてネットで注文し、読みました。ミステリーは読んだことがなかったので、人間関係を押さえ、誰が犯人かなど考えることもなく、あらずじだけ読んだのが最初でした。

1か月後の面談の時、読んだ本について話し合いました。Gさんは高校生の時に図書室で借りて、その本を読んだそうです。今回、私に本を紹介してくれて、Gさんもその本を購入し、再度読んだそうです。感想を述べあうと、犯人の動機や恋愛関係まで読み込んでいることがわかりました。面談中は笑顔で、質問もしてくれました。

3冊も読むとあることに気づきました。ミステリーはこの仕事に似ているところがあります。自閉症者のとる行動は一見奇妙に思えるところがあります。それはどうしてなのか、前後関係、過去の記録、様々な可能性を探り、本人の理解の仕方とそこから出てくる結果を推測し、仮説に基づいて検証します。それを確実にを行うためにはサインや痕跡を見落とさないことが肝要です。ミステリーの読み方は人によっては様々かと思いますが、私はそのようなことを留意して読んでいます。色々な分野の本を読むことは自分に以前より課していたことですが、ミステリーだけは手をつけることができなかつたのです。他者を理解しようとすることは自分に新たな可能性の扉を開いてくれるものなのかもしれません。

私はポアロという探偵が好きです。小柄で長い口髭を蓄えたベルギー人です。きれい好きで、物の位置がずれていたりすると直さなくては気が済まない性格で、言葉使いはとても丁寧です。考えの整理がつかないと、突然トランプで家を作り始めたりします。栽培していたカボチャに対しどういふわけか無性に腹が立ち、放り投げて隣人にぶつかりそうになったりもします。考えている本当のところはなかなか明かしてくれません。Gさんに意地悪な質問を試してみました。ポアロに似ているところはありますか？にっこり笑って首を横に振りました。

今年はGさんとアガサ・クリスティー研究をすることになっています。就労を希望するGさんがどこまで私に付き合ってくれるか少し心配ですが、同じ本を読んで、理解を深めあう時間を持つ。続けていくとどういふことになるのかわかりませんが、Gさんにとっても自分にとっても何か良いことがありそうな予感があります。

今年もやまびこ工房並びに相模原自閉症支援センターをよろしく願います。

(薬師丸和浩)

### 追記・・・表紙の写真について

就職に向けて準備をしている方が、大晦日の日に友人とカウントダウンライブを海ほたるで楽しみ、車中泊した後に撮影したものです。昨年から取り組んでいたことの一つとして、外泊時に眠れるようになるということがありました。工夫を重ねて、アイマスクや毛布を持参し、2時間30分眠れたようです。今年は就職できるように一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

## 今年のやまびこ工房について～各作業室の抱負～

やまびこ工房の支援は個別支援です。それぞれ一人ひとりの特長や特徴を生かした支援をしていくことにあります。1人部屋があって個別に支援している方もおりますが、多いところで14名の方が同じ部屋の中で個々に作業に取り組んでいます。どうしてある利用者はその作業室で過ごすのかグループ分けの理由があるはずではないのか？という問題提起が渡部匡隆先生（横浜国立大学）よりなされました。意識されていなかった理由を明らかにするために、個々の作業室の特色を探ることから始めました。

先生のアドバイスを受けながら、検証を繰り返し、少しずつ各作業室の色が見えてきました。今回の特集は各作業室の特色をお伝えし、その特色をより生かすにはどうしたらいいか？社会参加をキーワードに述べてみたいと思います。

### 工場

工場は数年前に、やまびこ工房でも受注作業等の生産性の求められる作業班が必要であるとの考えから出来ました。比較的支援度の高い利用者が多いやまびこ工房では、難しい試みでした。最初は対象となる利用者に交替交代で作業実習に参加してもらい、活動してもらいました。長時間活動に集中できる、衛生面が保持できる、品質管理が出来る等の受注作業を行える利用者が残り、今は4名の利用者が常時受注作業に当たっています。

作業内容は「クッキー、キャンディーの袋詰め」「たばこの付属品組立」などのスーパーやコンビニでも見掛ける製品づくりです。毎日の納受品に追われ、毎回違う作業等、変化変化の日々ですが、各利用者が生き生きと仕事をこなす姿を見る度に、仕事の喜びを感じとってくれば…と思いながら支援しています。

毎月僅かですが、2万5千円程の売上があります。売上だけでなく、作業にしっかりと取り組むことで精神安定を図っています。実際に受注は変化の連続なので、混乱なく色々な作業に取り組めるようになり、スキルが向上しています。

これからも売上の向上、納受品時の利用者参加、他作業種への挑戦などを通して社会参加の機会を増やしていきます。

### 作業室A

この班は3つの部屋を活用し、周りの話声や物音が出来るだけ気にならないように配慮して、自分の活動に集中出来る環境設定にしています。

活動内容は主に自主製作品作りです。一部の外注作業（「紙折、ペン先袋詰め」）を除き、「マット編み、ビーズアクセサリー、刺繍」等を行っています。

自閉症の障害特性でも挙げられる「人との距離の取り方の難しい」利用者が多い班です。言葉でのやり取りがあっても、自分の気持ちや考えが上手く伝えられない方、周りの物音や人の話声が気になってしまう方がいます。集団での活動が中々難しい方です。

話している内に自分の考えが整理されてきたり、また更に分からなくなってしまう…。皆さんもあると思います。こんな時はじっくりと話を聴きます（時には2時間に及ぶことも…）。場合によっては話している内容を本人の前で紙に書いたり、内容を整理して本人の好きなキャラクターの漫画にしたり、視覚的に分かり易く整理することが有効な時もあります。

職員とのやり取りを通じて、他者とのスムーズなやり取りができるようになることを目的として支援しています。トラブルになった時もその解決方法を本人と共に模索していきます。それが本人の精神的安定に繋がると考えています。

活動を通して、トラブル回避だけでなく、トラブルになった時も本人が自発的に解決していく姿が見られ始めています。引き続き時間をかけ、じっくり支援していきたいと思っています。





## 作業室C

作業室Cでは手先の器用さや集中力がある方が多いことから、自主製作品作りに力を入れています。例えば編み物では利き手はどちらかといったことから、押さえる・つまむ・引っ張るなどの動きや力加減、集中力の長さや達成感の感じ方といった一人ひとりの特徴を踏まえ、編み機のサイズ、一回の作業量（毛糸の長さ）などを試行錯誤して取り組む方を増やしています。例えばマット作りでは、紐の糸くずを取る、色で分ける、編んでいくなどの過程があります。ここでは普段なら“こだわり”とされる「色ごとに分けたい」「細かいゴミもきれいに取りたい」といった特徴を活かした分業をしていくことで、効率だけでなく質の良いものに仕上げることができています。

自主製作品作りには必ずしも器用さが求められるというわけではありませんが、その方に合った取り組み方を一つひとつ考えていくことは試行錯誤の連続です。また手先の力加減が難しい方や細かい所に注目することが苦手な方もいらっしゃる、個々の特徴を活かしきれっていないのが現状です。製品開発も含めまだまだ十分ではありませんが、製作だけでなくラッピングや売り子といった形で、少しずつでも自主製作品作りの輪に全員が参加していくことが現在の目標です。



現在は冬物製品を中心に  
取り組んでいます。  
ご意見・ご感想お待ちしております！

やまびこ工房で取り組んでいる自主製作品は、年々種類が豊富になっています。それは、取り組める方が増えてきたこと、協力してくださっている方々のアイデア、購入してくださった方々の意見があり、輪が広がってきたからこそだと思います。また昨年12月よりJA相模原市農産物直売所「ベジたべな」にて、自主製作品を販売できることとなりました。新たに多くの人目に触れる場ができたことにより、商品として売り出していく上で厳しい面も見えてくるかと思えます。それも含め、今後もより良い製品作りを通して利用する方々の活動の充実を図り、やまびこ工房の強みにしていけたらと思えます。

## 作業室D

作業室Dは他作業室と比べると職員、利用者の動きを気にされている方が少なく、各作業スペースから作業室内が見渡せる配置になっているのが特徴です。散歩やトランポリン、サイクリングなど運動が好きな方が多く、最近では屋上のスペースを利用してローラースケートを楽しまれている方もいらっしゃいます。

今は何か新しいことを通じて社会参加できないかと考えています。作業室Dには作業物品が置かれている棚をきれいに整理整頓することができる方、丁寧に作業に取り組むことができる方や支援者との活動を楽しむことができる方、余暇時間に絵を描くなど創作に取り組むことができる方がいます。そのような力を生かす方法を検討してきました。また、今までの経験を調査した結果、以前ろくろでお碗をつくったことがある方がいらっしゃいました。そこで、陶芸にチャレンジしようと思えます。箸置きなど小物作りから始め、家庭で使用していただけるような食器類や湯飲みなどを製作したいと考えています。特に形やデザインは決めず個性溢れる作品を製作できればいいなと考えています。

作品を製作するに当たり、それぞれの係りに分担し、作業室Dの方が一人でも多く関わればいいなと思えます。また、最終的には商品として、雑貨屋などで販売するのが作業室Dの職員の目標です。

## 作業室E

作業室Eは周囲の動きに敏感に反応する方が多いため、なるべくお互いの動きが見えないように配慮した部屋作りを行っています。細かい作業があまり得意ではない方が多い反面、外に出たり、身体を動かしたりする活動を楽しまれる方が多くいらっしゃるのも特徴です。こういった現状を踏まえ、どの方も身体を動かす活動の時間を設け、個人の嗜好に合わせ、散歩やトランポリンなどに取り組んでいます。自閉症特有のこだわりの強さゆえに苦勞されている方も、こういった活動を楽しむことで気分転換を図ると同時に、やまびこ工房に来る楽しみを持ってるといいなと考えています。対応は1対1を基本として行っていることもあってか、今まで散歩をするのが苦手だった方も、支援者が寄り添って行うことで、楽しめる活動の1つになった例もあります。それまで屋内に閉じこもりがちだった方が自分から「お散歩」の希望を出してきた時には、作業室の職員みんなでガッツポーズでした。

今後は身体を使った活動で社会参加ができるといいなと思っています。現在は空き缶回収に取り組んでいます。他に清掃や荷物運びなどの新たな活動も取り入れられたらいいな、と考えています。



## 作業室F

作業室Fは、やまびこ工房本棟とは別の建物にあります。もちろん普段は違う玄関から出入りして、食堂へ行く時にも靴を履き替えなくてははいけません。本棟から離れているので、出会う利用者や職員に限られていることも大きな特徴の一つです。やまびこ山脈から少し離れた独立峰といったイメージでしょうか。そしてその中に休憩場所を含めると小さめの3つの部屋があります。

利用者はほとんどの方が文字の読み書きが出来、手先の器用な方もいらっしゃいます。でも逆に1対1の対応が必要な方も多く能力にアンバランスさを持っていることが作業室Fの利用者の特徴だと思います。そんな強いこだわりや対人関係に困難さがある方を幾つかの別れた部屋を生かして支援しています。

仕事については、皆さん「能力はあるけれど、生かし切れていない」という部分が多くあるように思うので、まずは受注作業や自主製作品についていろいろ試しながら出来る作業種を探ってゆきたいと考えています。

刺繍に関して、特にクロスステッチについては、デザイン次第でまだまだいろいろな商品の可能性があるので、持っている高い技術をうまく形に出来ればと思っています。そして何より安心して生活できる環境を提供して、穏やかに自分の仕事や余暇活動に集中できるよう支援してゆきたいです。



## ヘルパー便り



新しい年を迎えて1月2日、Aさんの希望で初詣に行っておきました。行き先は鎌倉です。Aさんとは初めての外出でお互いに緊張していたことと思います(ヘルパー経験の浅い私にとっては初めてのことが多いのですが…)。

Aさんのお宅に伺うと「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」と、新年の挨拶をお互いに交わして出発。最寄りの駅までの移動中は年末のTV番組『紅白歌合戦』の話や「おせち料理は食べましたか？」等々、年末年始の話題が盛り沢山であつという間に駅に到着しました。

駅のホームで鎌倉行きの電車をAさんと待っていると、親子連れの外国の方が反対側のホームからAさんに挨拶をしてきました。

男性が「こんにちは。どちらに行かれるんですか？」と笑顔でAさんに訊きました。

Aさん「明けましておめでとうございます。鎌倉に初詣に行くんです。」「どちらに行くんですか？」と

Aさんも笑顔で返します。

男性は新年の挨拶をしながら「新宿に行くんです。」と。

Aさん「そちらはお子さんですか？」

男性から「そうです。」と返事を受けると、Aさんは私のことをその男性に紹介してくださり、そして「たまに駅で会う人ですよ。」と私に彼らを紹介してくれました。きっと名前は知らない方だけど、たまに会うと挨拶を交わす間柄なのかな？と、勝手ながらに思いました。しばらくやり取りをしていると親子連れが待っている電車の方が先に到着。彼らの乗った電車が動き出すと彼らは車内から、Aさんはホームから手を振っていました。

冬の冷たい風が吹いていたその日、ほっこりさせてもらったそんな素敵なワンシーンでした。(大南)

## ナウシカ便り



今回は、皆が集まる憩いの場所「リビング」についてお話したいと思います。

ナウシカで暮らす方々にはそれぞれに居室が用意されています。各居室にはエアコンが完備され、テレビをお持ちになる方はもちろん、ゲーム機やラジカセを用意されている方もいらっしゃいます。

皆さんはそんな快適な居室でばかり過ごされていると思われがちですが、意外にもナウシカの方々はリビングで過ごされていることが多いのです。

特にナウシカのリビングには大きなソファがあり、背もたれを倒してベッドにもなるので、ナウシカでも1・2を争う人気のスポットになっています。

また、このソファの真上には1本のロープが張られた布が取り付けられていてこの布を横一杯に広げると間仕切りになるので、このソファを境にリビングを必要に応じて2つの空間に分けることが出来ます。そのことで、他の方が食事をしているのを気にして、と言ってもお皿の向きや位置ですが、逆に食事中に他の方の動きが気になって落ち着いて召し上がれなかったりといったことを防ぐ役割を果たしています。また、休憩の場所と食事の場所がはっきり分かれたことで居室よりもこちらのソファで過ごすことが多くなった方もいらっしゃいます。



食卓側



休憩側

数名の方が一緒に使われる事もあり、私も並んで座って、お話が出来る場所として愛用しております。時には、本を読む人の傍らで別の方が毛布を掛けてウトウトされる場面もあり、思わずほっこりしてしまふのでした。(田辺)

# 後援会のページ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

風の谷後援会会員の皆様・やまびこ工房家族会の皆様・やまびこ工房職員の皆様、2014年の初日の出はご覧になりましたでしょうか！！

素晴らしい夜明けでした。ついつい手を合わせ、子ども達の幸せを何度もお願いしてしまいました。

社会福祉法人風の谷「やまびこ工房」が、1998年7月に開所されて今年で満16年となるそうです。

後援会の目的は『(社福)風の谷が行う各種事業がより一層発展するように支援する』と、なっております。

顧みれば次々と変わる国や行政の福祉政策、それを受けての色々な対策等々を多くの先輩達そしてやまびこ工房職員の方々が、日頃から子ども達の幸せ第一を考え努力していただいた賜物と深く感謝申し上げます。

いつもいつも子ども達の話ばかりですが、我々親も元気でなければなりません。「一年の計は 元旦にあり」の如く、今日から大きく背を伸ばして「元気が一番・達者が何より」で参りましょう。

皆様方にとって幸せな一年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

今後とも後援会へのご協力をよろしく願いいたします。

風の谷後援会会長 佐藤辰男



平成 25 年 10 月 3 日～平成 25 年 12 月 31 日 (五十音順敬称略)

## 【更新・個人】

(相模原市)

会田裕子 黒田アキ 西田誠 萩原春夫 萩原利恵子 柳場秀雄

(相模原市外)

石渡和実 清水洋子 内藤美也子 (横浜市) 有路富夫 鶴田佳子 (海老名市) 浅羽昭子 (横須賀市)

大久保禎 (秦野市) 奥平瑞恵 (伊勢原市) 蘭ヒデコ (座間市) 上城和子 (北九州市)

村井伸芽 (福岡市)

## 【更新・団体】

相模原やまびこ会

## 【ご寄付・ご協力】

(有) 伸和トラスト ワーカーズコープ・キュービック 依知の会 手編み教室



## 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000 円/年間 団体会員 一口：10,000 円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345